類は類を呼ぶファシスト：イスラエルとコロンビア政権

アラン・マクレード著、脇浜義明訳　　原典：MintPress　News, 2021 年 5 月 28 日

この一カ月間コロンビアで全国的ストライキが続き、極右イバン・ドゥケ政権が残酷な弾圧を行っている。労働組合連合のストで交通と経済が渋滞するのに対し、政府は国軍の暴力で対応し、４月２８日以降少なくとも４４人が殺害され、５００人が「行方不明」となった。ＥＳＭＡＤ（対暴動機動部隊）で悪名を馳せる警察や、国家と繋がる民兵組織は１００発以上の実弾を発射し、２８人の労働者が目を負傷した。

この民衆弾圧は、支配下にあるパレスチナ人の経済的・軍事的・社会的抵抗の弾圧経験が豊富なイスラエル政府の支援のもとで行われている。米国を除くと、イスラエルがコロンビアの軍と民兵組織への主要武器提供者で、コロンビア国軍と警察はイスラエルの武器を使って、イスラエルの訓練を受けて、自国民を殺し傷つけているのだ。

国家が国民に戦争を宣言したのと同じで、公的医療制度を廃止し、年金を民営化し、差低賃金を減額し、主食に１９％課税するというドゥケ政権の新自由主義政策を推し進めようとして、街頭と地域を戦場にしたのだ。コロンビアの労働者階級への全面攻撃である。ドゥケの支持率は歴代大統領の最低の１８％にまで下落したが、彼は攻撃の手を緩めていない。

軍事関係　　SNS には国軍が抗議する人民にイスラエル製を使用している写真が出回っている。大都市の路上にはイスラエル製サンドキャット装甲車が展開している。軍隊と警察の標準装備銃はすべてイスラエル製である。陸軍はイスラエルの IMI 社製の歩兵用小銃、特殊部隊は IMI 社製小火器タボール、空軍、海軍、警察は IWO エーマを使っている。警察がイスラエル製タボール TAR-21 突撃用ライフルを街頭でデモ弾圧に使用している写真が SNS に流れている。

ドゥケは全国ストを弾圧するために軍を各都市に送り込んだ。これらの軍は、パレスチナ人弾圧で腕を鍛えたイスラエル国防軍武官によって反乱鎮圧訓練を受けた特攻隊である。コロンビアの弾圧圧光景はパレスチナ人にとって馴染みの光景である。

イスラエルの民間軍事請負企業は、軍事訓練、反乱弾圧作戦、情報収集、標的暗殺、ベネズエラなどの国に対する軍事介入、その他様々な戦争行為に関して、コロンビア国軍と密接に関わっている。コロンビアにとってイスラエルは米国に次ぐ第二の軍事パートナー国で、コロンビアの度重なる国家テロの背後にイスラエルがいると、コロンビア内戦を研究したノッティンガム大学のオリバー・ドッド博士が我々ミントプレスの電話インタビューの中で述べた。

コロンビア上空をイスラエル製ドローンが飛ぶ。政府の情報取集と監視活動を行っているのだ。またイスラエルの AMnetpro SAS 社はコロンビア軍に顔認識やその他のセキュリティ技術を提供している。

さらに憂うべきことに、過去５０年間国内で残酷なテロを行ってきた極右民兵もイスラエルで直接その訓練を受けた。悪名高いテロ組織 AUC の指揮官カルロス・カスターニョはイスラエルで元イスラエル国防軍中佐で雇用兵を組織しているヤイル・クラインから訓練を受けた。またクラインはコロンビアに招待されて国家警察隊を訓練した。ドッド博士はイスラエルのノウハウがコロンビア政府にとって魅力的であることを、次のように説明している。

> コロンビア内戦に関与しているイスラエル国防軍退役軍人が多い。コロンビア国はイスラエル人雇用兵 ― 民間軍人契約者と呼ばれる ―　に大きく依存している。パレスチナ人弾圧の中で発展させた反対者鎮圧の熟練した技術と知識を利用するために、彼らを採用するのだ。雇用兵は国軍兵士ではなく、コロンビア軍の軍服も着ていないから、軍は自国民殺害という汚名から逃れることができる利点もある。

政治的つながり　　ラテン・アメリカ在住のパレスチナ人が活躍している。最近では、パレスチナ出身のカルロス・ロベルト・フローレスがホンジュラスの大統領となり（１９９８～２００２）、アントニオ・サカがエルサルバドルの大統領となり（２００４～２００９）、イェウデ・シモンがペルーの首相を務めた（２００８～２００９）など、社会的に貢献進出している。２０００年代の南米大陸の左傾化のとき、パレスチナを国家として扱う国が多かった。

しかし、コロンビアのドゥケ大統領は逆の国際的立場を取った。昨年彼は米国最大の親イスラエル・ロビー団体 AIPAC で演説し、コロンビアの大使館をエルサレムに移転すると語った。さらに彼はベネズエラにヒズボラが存在することを非難し、ヒズボラをイスラエルの敵テロリストであると決めつけて、コロンビアがイスラエルの友好国であることを示した。

約２５０を殺し、２０００人を負傷させ、数万人の住居を破壊したガザ爆撃のとき、コロンビア政府はイスラエルを支持し、ハマスのロケット弾を非難した。「コロンビア政府はイスラエルのテロ攻撃を憂慮し、テロ被害者との連帯を表明する」と大統領書簡を出した。ハマスのロケット弾よりはるかに破壊力が大きいイスラエルのミサイルへの言及はなかった。

依存の連鎖　　コロンビア・イスラエルの政治的連携に伴って経済的関係も進展した。２０１３年両国は自由貿易協定を結んだ。「これはコロンビア共和国とイスラエル国の関係にとって歴史的瞬間だ。この協定によって両国のパートナーシップ、友情、同胞愛…を新しい政治的・経済的水準に引き上げる基盤が生まれるであろう」とネタニヤフ首相が言った。

イスラエルからは武器とノウハウ、コロンビアからは鉱物資源の輸出である。２０１１年のイスラエルからコロンビアの輸出の４９．６％は軍用武器で、コロンビアからイスラエルへの輸出の８９％は石炭、残る１１％は農作物（コーヒ、果物、砂糖など）であった。

鉱物資源は、軍と軍に連携する民兵がアフリカ系住民と先住民から土地を取り上げて、多

国籍アグリビジネスやエネルギー企業に利用させて得るものである。コロンビア政府は黒人と先住民を犠牲にしてイスラエルの武器とノウハウを買い、その武器とノウハウはパレスチナ人を犠牲の羊にして開発される。イスラエルは地球の両大陸の民族浄化の上に立って自国の電気の安定供給をしているのである。

米国の前哨基地　　イスラエルとコロンビアはどちらも米国の盟友である。イスラエルは毎年米国から数十億ドルの軍事援助を受け、コロンビアも麻薬戦争の名目で米国から武器援助（２０２１年は４億６千万ドル相当）を得ている。プラン・コロンビア（麻薬戦争の名目で右翼政権に軍事援助する政策）はブッシュ政権とクリントン政権に生まれたものだが、これを考え出したのは当時のジョー・バイデンであった。「私がプラン・コロンビアを組み立てて、コロンビア政府を立て直してやったのだ」とバイデンは自慢している。大統領になったバイデンはこの政策をコロンビアからラテン・アメリカ全体に拡大している。

バイデンは、最近のイスラエルのパレスチナ人弾圧とコロンビアの自国民デモの残酷な弾圧を非難しなかった。イスラエルがガザの民衆を殺しているとき、彼は「イスラエルは自衛の権利がある」と言って、それを擁護したのだ。同じように、コロンビア政府が市民デモを暴力鎮圧しているのを批判しなかった。それどころか、米国防長官ロイド・オースチンは今週コロンビアの国防相ディエゴ・モラノと会い、「両国の防衛協力関係の強化」と語ったのである。

中東・ラテン・アメリカ関係を追跡するジャーナリストのベレン・フェルナンデスは「イスラエルとコロンビアは米帝国の前哨基地で、そういう立場で米の麻薬戦争の協力者という名目で、コロンビアは自国民をテロ行為で殺害・抑圧することが許されているのです」と書いている。彼女はさらに「両国は米国と強く繋がっていて、いわば軍事的・経済的「メナージュ・ア・トロワ」（夫婦と愛人が同居する家庭）のような不安定な国家、強制退去と右翼政権による暴政でしか維持できない国家となっている」と指摘した。

2013 年 6 月 10 日（月）、エルサレムの大統領官邸で行われた歓迎式典で、儀仗兵の前を通るコロンビアのファン・マヌエル・サントス大統領とイスラエルのシモン・ペレス大統領（左）。(AP

Photo/Sebastian Scheiner)

ミントプレスは、最近市民デモに対して苛酷な弾圧があったカウカ県で活動する医師マヌエル・ローゼンタールにもインタビューした。彼はコロンビアとイスラエルの類似点いくつかあげた。「コロンビアの搾取と暴力だけの政権に抵抗する民衆蜂起はイスラエル支配に抵抗するガザの蜂起と同じだ」と彼は語った。

> カウカ県の弾圧とガザ攻撃のどちらに対しても米は沈黙するか、または「分極化」という言葉で政権による人権蹂躙を隠蔽するだけである。コロンビアの場合、もし米国や多国籍企業の介入がなければ民衆蜂起は起きなかったであろう。イスラエルでも同じことが言える。

コロンビアの役割はイスラエルのそれとまったく同じで、米の先兵としてラテンアメリカ地域でベネズエラ、ボリビア、その他の進歩的国家を破壊する役割を担っている。またコロンビアはラテン・アメリカ地域の米軍基地のセンターでもある。中東におけるイスラエルの位置とラテン・アメリカにおけるコロンビアの位置はまったく同じであるとローゼンタールは言った。

> ネタニヤフのファシスト政権は地域ボスとして中東地域における米国の権益を守る。その返礼としてイスラエルは巨額の支援金を米国から得ている。同じように、コロンビアの前大統領ウリベはラテン・アメリカにおける米国の：番兵の役割を担って多額の援助金を米からもらった。この構図で米国の軍事会社は大儲けをした。またイスラエルは軍事大国となり、世界的武器輸出国となった。

両国が抵抗する人々に使用する催涙ガスは米国ペンシルバニア州の武器メーカーの製品である。しかし、米国は自国が他国の人民弾圧に手を貸しているのを目立たないようにしたいために、両国にそれを行わせるのだ。例えば、イスラエルは、世界世論の圧力で米国がチリのピノチェト独裁政権への武器支援を中止せざるを得なくなったとき、その肩代わりをした。また、アルゼンチンが軍事政権下にあったとき（１９７８～１９８３）、その親米軍事政権の武器の９５％をイスラエルが提供した。

ラテン・アメリカ諸国の警官や軍将校を米国で民衆鎮圧技術を訓練することへの批判が高まった。特にジョージア州のフォート・ベニングの米州学校の卒業生がジェノサイド、戦争犯罪、人道に対する罪で有罪になるケースが頻繁になったので、米国政府はこの訓練を続けるのを躊躇した。コロンビア首都ボゴタにある「平和連帯のための証人」（Witness for Peace and Solidarity Collective）のコロンビア・プログラム理事長のエバン・キングはミントプレスに次のように語った。

コロンビアは人民弾圧戦術の南米諸国への輸出を始めたので「ラテン・アメリカのイスラエル」である。米国は外国軍隊の洗脳教化を同盟国に下請けさせたがっている。コロンビアがそれを請け負ってくれるので、米国は自分の手を汚さないで済む。今やコロンビア軍がホンジュラス、サルバドール、メキシコの警官を訓練している。ごく最近ではコロンビアの特殊部隊がハイチへ行って、現在起きている民衆の抗議を鎮圧する指導をハイチの治安部隊に行っている。

入植植民地国家　もともと「ラテン・アメリカのイスラエル」という言葉は、元ベネズエラ大統領ウーゴ・チャベスが米帝国主義の手先コロンビアを批判して使った言葉だった。それが後にコロンビアの元大統領サントスが、コロンビア国民はイスラエル名誉国民だとイスラエルとの類似点をあげて称える言葉として転用したのである。

たしかに両国政府には類似点が多い。両国政府は先住民に対して戦争を継続し、決して平和をもたらさない「和平プロセス」という言葉を用いる。また政府に反対する人々を「テロリスト」と規定する。コロンビアでテロリストとされるのは労働組合、左翼ゲリラ、先住民指導者、社会運動指導者である。イスラエルでテロリストとされるのは、医師、ジャーナリスト、そして言うまでもなくパレスチナ人である。要するに政府の気に入らない人はすべてテロリストで、従って殺害して当然となる。

K44D7R ロンドン、英国。2017 年 9 月 4 日、ロンドン。イスラエルの装甲車であるプラカン・サンドキャットを積んだトラックが、DSEI 武器見本市の ExCel センターに入るのを阻止する、武器貿易とイスラエルへの武器供給に反対するキャンペーン参加者たち。(Mark Kerrison/Alamy Live News)

「イスラエル政府の和平とは、イスラエルが好きなように土地を接取でき、返還しないですむ状態である。コロンビア政府の和平とは、先住民から土地を自由に奪って外国企業の投資に利する状態のことである」とキングは言って、次のように付言した。

> まさにその点が両国の類似点で、両国にとって反乱対策はもはや脅威に対する戦略ではなく、統治方法であり、国家の存在理由なのである。国家の仕事は社会サービス提供とか人々の権利保障ではなく、内なる敵から自らを守ること、如何なる手段を使ってでも護身することである。

ドゥケの指導者アルバロ・ウリベの統治下のコロンビアでは、１万人の死者を出す超法規的殺人が長期間続いた。「偽陽性疑惑」（False Positive Scandal）と呼ばれるもので、政府軍は気に入らない者を誰でも殺害し、殺した後で「麻薬組織のメンバーだった」と事後説明して殺害を正当化したのである。この方法で政府は反対者を消し、将来の反対者を沈黙させたのである。ネタニヤフはこのやり方を大変気に入り、昨年ドゥケを「イバン、君のテロに対する闘いにおける指導は他のラテン・アメリカ諸国の模範となる」と誉めそやした。現在も続いている民衆デモが起きたとき、ディエゴ・モラノ防衛相は国家が「犯罪組織のテロ脅威に直面している」と言った。

両政府とも入植植民地プロジェクトを実行している。コロンビアの白人エリートが先住民やアフリカ系コロンビア農民の土地を奪って多国籍企業に提供するプロジェクトで、イスラエルの場合はパレスチナ人の土地を奪ってユダヤ人入植地に変えるプロジェクトである。その際行使されるイスラエル軍の暴力は報道されることはあるが、コロンビア軍の暴力はあまり報道されない。国連の推定によると、軍の暴力によって家と土地から追われたコロンビア人は７４０万人で、パレスチナ難民より数が多い。

「政府は先住民やアフリカ系を第二級国民扱いし、人権を認めない。法的にそう規定していないが、例えばヴェナベントゥラのような町の黒人地区を行けば、それがはっきり分かる」とキングは述べている。

> ヴェナベントゥラの人々の生活状態はガザの人々のそれに近い。アパルトヘイトは公式に存在しないが、土地と住居を捨てて逃げださざるを得ないような状況を強いられている。極度の経済的困窮に加えて人道的圧迫があって、政府が暴力を使わないでも人々が逃げ出さざるを得ないような状況なのだ。

ラテン・アメリカとイスラエル　ラテン・アメリカ地域ではイスラエルは党派対立問題である。左翼はパレスチナ人の闘いを自分たちの闘いと同じ反帝国主義闘争と見てパレスチナを支持し、右翼はイスラエルを支持する。２０１０年チャベス大統領はパレスチナ独立への道の全面的支持を表明した。「イスラエルはテロリスト、殺人者の国だ。パレスチナ万歳」と彼は言った。４年後、イスラエルのガザ攻撃があったとき、ボリビアのエボ・モラレス大統領は「イスラエルはテロ国家」と公式に宣言した。

２０１１年、そのモラレスが米国支援のクーデターで倒れると、新極右政府はイスラエルと国交を回復し、すぐにイスラエル国軍将校を招いて、クーデターに抗議する国民を鎮

圧する訓練を受けた。「援助してもらうために彼らを招待した。彼らはテロ対策に熟練して専門家だ」と、新政府のアルトゥーロ・ムリーリョ内務相が言った。イスラエル・カッツ外相はボリビアで「友好政権」が誕生したことを喜ぶ声明を発した。ベネズエラでは、左翼のニコラス・マドゥロの大統領選挙勝利を認めず、米国の支援で勝手に暫定大統領を名乗ったファン・グアイドが真っ先にしたことは、イスラエルとの国交正常化を行うという表明であった。

ブラジルの極右大統領ジャイール・ボルソナーロはまさにイスラエル信者のような人物で、集会を行うときは常に付近にイスラエル国旗を何本も飾る。元将校だった６６歳のボルソナーロはエルサレムに貿易事務所を開き、やがて大使館をエルサレムに移すことを匂わせている。その他ホンジュラスのような右翼政権の国もブラジルに倣っている。ボルソナーロの子どもたちはイスラエル国軍の軍服やモサドのシャツを着て記念写真を撮っている。ネタニヤフはブラジルの姿勢に大満足し、「ブラジル政府と国民は最高に素晴らしい友人だ」と言った。

ラテン・アメリカへのイスラエルの登場と保守反動キリスト教原理主義の福音派の登場とは軌を一にした。先週ミントプレスがインタビューしたジャーナリストで聖職者でもあるクリス・ヘッジズによると、福音派の予言では、世界の終末にはユダヤ人が聖都エルサレムに戻り、アル・アクサ・モスクが破壊されるが、やがて心正しき者だけが天国へ召され、呪われた者（ユダヤ教徒と他の異教徒と信仰心の無い者）が地獄へ落ちるという筋書きである。ボルソナーロや他の右翼指導者は福音派から援助を受けている。

チリのセバスティアン・ピニエラは、４０年前のピノチェトと同じように、国民から軽蔑され、全国的抗議で苦境にたっているが、イスラエルが救いの手を差し伸べている。フェルディナンドが書いているように、イスラエルはチリに武器と反乱鎮圧用道具を売りつけ、チリの軍と警察を訓練し、国民の抵抗を抑えるノウハウを教えている。

未来はよくなるだろうか　コロンビアとパレスチナで展開する無法暴力が世界に知れ渡るようになれば、少しは被害者に有利な希望が生まれるであろうか。世論調査によれば、ドゥケの政治的力が弱まり、来年の大統領選挙では左翼のグスタボ・ペトロが優勢な気配である。

ペトロは、暗殺脅迫、票の買収、談合、ペトロに投票したら殺すぞという右翼民兵の脅しが横行した２０１８年大統領選挙で敗北した。しかし、無策無能なコロナ対策や無茶苦茶な経済政策で、ドゥケは支持勢力からも見放されている。ペトロが来年の選挙まで生きていたら（コロンビアでは進歩派政治家にとって難しい）、きっと勝利するであろう。

パレスチナに関しても米国世論に若干の変化があるようである。米国では無条件なイスラエル支持が圧倒的であったが、最近イスラエルの攻撃性を非難する政治家、ケーブル・ニュース・コメンテーター、コラムニストが現れている。イスラエルをアパルトヘイト国家だと批判する人権団体も多い。BLM（ブラック・ライヴズ・マター）運動もパレスチナ

人の闘い支持を公然と掲げ、多くの黒人政治家もパレスチナ人への暴力と黒人への暴力を同じものと言っている。

「私はパレスチナ人と連帯する」と、今月の国会でコリ・ブッシュ議員（ミズーリ―州民主党）が演説したが、こんなことは数年前には考えられないことだった。「ファーガソンで丸腰の黒人少年を殺害した道具は、わが国がイスラエルへ武器援助してパレスチナ人を殺害している道具と同じものです」と、ミシガン州選出のラシーダ・タリーフ議員が国務省前の抗議集会で演説した。「パレスチナ人に対して行われている暴力はわが国の黒人に対して行われている暴力と関連しているのです。」

コロンビア人民に行われている暴力とパレスチナ人に行われている暴力も同質である。すべて関連し合っているのだ。そしてコロンビア人民の解放とパレスチナ人の解放も関連し合うだろう。